

Amir Tsarfati 氏ジャパンツアー in 熊本 2017年7月9日公開
第一部 聖書預言について

.....
シャローム！皆さんと共に賛美できることを光栄に思います。私はエルサレムで生まれ、ユダ族の出身です。そして、熊本にいる事を光栄に思います。日本に来て、温かく迎えてくださったことを感謝します。このクリスチャンたちの間で、神様が美しい業をされておられることを本当に思います。そして、皆さんお一人お一人、神様が与えてくださった使命に忠実におられると。主は驚くべきことをしてください。日本という国は、イエスに飢えています。皆にイエスを伝える必要があります。聖書には、

14 ...宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。

(ローマ 10:14b)

と書いてあります。イエスが生まれた瞬間に、彼の宿命は一切イスラエルの民に限られたものではありませんでした。ルカの福音書 2:25 から読んでみましょう。

25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。聖霊が彼の上にとどまっておられた。

26 また、主のキリストを見るまでは、決して死なないと、聖霊のお告げを受けていた。

27 彼が御霊に感じて宮に入ると、幼子イエスを連れた両親が、その子のために律法の慣習を守るために、入って来た。

28 すると、シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。

(ルカ 2:25~28)

ということで、イエスが生まれたその日から、彼の宿命はイスラエルだけのものではなく、この日本を救うためでもあったのです。熊本を救うため、東京を救うため、大阪を救うため、川崎を救うため(笑)私はトヨタと言いそうになりましたが(笑)イエスは、全世界を救うために来られました。主のミニストリーを理解するには、霊的成熟が必要です。シメオンは、しっかりと成熟し切っていました。全て経験するには十分歳を取っていて、神様からの啓示を受け取るにも十分な歳だったのです。

29 「主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。

30 私の目があなたの御救いを見たからです。

31 御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、

32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。

(ルカ 2:29~32)

イエスの、異邦人の救いのためのミニストリーが、この啓示によって直接繋がりました。そして、過去におられ、今おられ、これから来られる方は、イスラエルの栄光のためだということです。面白いことに、シメオンはマリヤにこう言いました。

34 また、シメオンは両親を祝福し、母マリヤに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人が倒れ、また、立ち上がるために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。

35 剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう。それは多くの人の心の思いが現れるためです。」

(ルカ 2:34~35)

そこで、このとき既にイエスは拒絶されるということが語られています。その理由は、イエスが人々の心を露わにするからです。心は陰湿で、人の心から悪いものが出て来ます。誰かがあなたのことを暴露した時、あなたの反応には二通りあります。あなたの心が陰険である事を認めれば、そうすれば、あなたは悔い改め赦しを請うでしょう。あなたがそれを拒絶して、認めないなら、その人に対してとても強く敵対するでしょう。この世に赤ちゃんとして生まれた同じイエスが、——聖書では、

40 幼子は成長し、強くなり、知恵に満ちていった。神の恵みがある上にあつた。

(ルカ 2:40)

51 それからイエスは、いっしょに下って行かれ、ナザレに帰って、両親に仕えられた。母はこれらのことをみな、心に留めておいた。

(ルカ 2:51)

イエスの秘密は従う事でした。まず、父なる神に従い、同時に地上において、イエスの公生涯が始まるまでは、両親に従わなければなりません。これが、人間にとって最も難しいことです。従うこと。もし、あなたが神だとして、神がお造りになったものに従うということを想像してみてください。容易な事ではありません。しかし、主は、主の時がまだ来ていないという事をご存知でした。ヨハネの1章を見てみましょう。

1 初めに、ことばがあつた。ことばは神とともにあつた。ことばは神であつた。

2 この方は、初めに神とともにおられた。

3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずに出来たものは一つもない。

4 この方にいのちがあつた。このいのちは人の光であつた。

5 光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかつた。

(ヨハネ 1:1~5)

主は創造主であられて、被造物ではありませんでした。主は世の光でした。光が灯されると、そこに闇はありません。より強い闇というものはありません。闇は完全な闇ですが、そこに少し光を灯すと、闇は消え去ります。私たちは一人一人が大きな光となるように言われています。ご覧のように、ヨハネもそれをあらかじめ知らされていたのですが、全てを受け取っていたわけではありませんでした。

10 この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかつた。

(ヨハネ 1:10)

これはイスラエルについて語られています。

11 この方はご自分のくんに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかつた。

12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

(ヨハネ 1:11~12)

神が私たちが造られたことを、私たちは理解しなければなりません。それに関して、イエスは何かをされました。私たちのほとんどが生まれた時にはイエスを知りません。そして、イエスが私たちの人生に入って来られた時に、

9 すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。

(ヨハネ 1:9)

まことの光が世に来られました。だから、バプテスマのヨハネがイエスを見た時に、

29 ...「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。...」

(ヨハネ 1:29)

と言ったのです。皆さんにお伝えしたいのは、イエスに従うというだけでは十分ではないということです。皆さんは、イエスがどういうお方であられるかということと、何のために来られたのかということを理解しなければなりません。イエスが皆さんに求めておられることを完全に理解しなければなりません。時に、私たちは本当に小さなことにとらわれ過ぎて、全体像を見ることが出来なくなってしまいます。クリスチャンの中には、誰が正しくて誰が間違っているのかというエゴの戦いが起こっています。私たちは、100万人のクリスチャンを一つの国の中に持つことができます。1000もの教派を持ち、その中で一致もなく、愛もなく、調和もない、そしてそこに愛がなければ、だれも主の弟子である事を気づくことはできません。私たちの中にある愛によって、周りの人が、イエスが主であることを知るのです。

イエスと3年間を一緒に過ごした弟子たちの話をしたいと思います。毎日、彼らは主を見ていました。主の奇跡を見ました。主の教えを聞きました。主による癒しを見ていました。全てを見ていました。主の匂いを嗅いでいました。主に触れていました。主と共に歩きました。主の口から出る一つ一つの言葉が語られていることを聞きました。それが右耳から入って、左耳から出て行きました(笑)。何故でしょう？それは、彼らが全体像を見ていなかったからです。「どうして私たちはここに座っているのに、イエス様はあんなところに座っておられるのだろうか？」と考えたり、もしくは「天では、誰が主の隣に座るのか」ということを考えていました。ヨハネに語っておられる時、ペテロに語っておられる時、彼らは必死に聴こうとしました。それが、彼らがいっつも考えていた、地上のことだったのです。シナゴグで、ユダヤ人たちが祈る方法を皆さんにお見せします。私は小さい頃、シナゴグに行く度に、安息日の日とか、いつもこのようにやっていました(周りをキョロキョロ見回しながら体を揺すってみせる。)(会場、笑いに包まれる。) 皆さん理解しないといけないのは、他のことには関心が行くのですが、祈りに集中することができません。祈りの言葉は口にすることが出来ても、目は他の所を見ているのです。そこでイエスは、主のミニストリーで語っておられたのは、「彼らは聞くには聞くが悟らない」(マルコ 4:12)のです。例えば、マタイ 16章、聖書にはこうあります。

21 その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。

22 するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」

23 しかし、イエスは振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

(マタイ 16:21~23)

イエスは、弟子たちに終わりについて語られたのです。彼らは、主が死ななければならないことを分かっていました。そして彼らは、主が救いのためによみがえらなければならないことも知っていました。イエスがここで言われたのですから。21節の終わりに、「苦しみを受け、殺され、三日目によみがえる」と書いてあります。だから、主がおっしゃらなかったとは、私たちには言えないのです。ルカの福音書 24章、二人の弟子がエルサレムからエマオへの道を歩いている時の箇所をご覧ください。

- 13 ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから十一キロメートル余り離れたエマオという村に行く途中であった。
- 14 そして、ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた。
- 15 話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。
- 16 しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。
- 17 イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。
- 18 クレオパというほうが答えて言った。「エルサレムにいながら、近ごろそこで起こった事を、あなただけが知らなかったのですか。」
- 19 イエスが、「どんな事ですか。」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。
- 20 それなのに、私たちの祭司長や指導者たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につけたのです。
- 21 しかし私たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。事実、そればかりでなく、その事があってから三日目になりますが、
- 22 また仲間の女たちが私たちを驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみましたが、
- 23 イエスのからだが見当たらないので、戻って来ました。そして御使いたちの幻を見たが、御使いたちがイエスは生きておられると告げた、と言うのです。
- 24 それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言ったとおりで、イエスさまは見当たらなかった、というのです。」

(ルカ 24:13~24)

彼らはとても悲しんでいます。なぜなら、彼らが計画していたことが、その通りにならなかったからです。主は死なれました。「私たちは、彼こそがその方だと思っていたのに。」そして、彼らは、主のよみがえりについて説明しています。どのようにして説明していますか？とても暗い顔をして説明していますね。女の人たちが墓に行ったけど、墓が空っぽだった、と言いましたね。ちょっと待って、巻き戻しましょう(笑)もう一回行きます。女の人たちが墓に行きました。墓が空っぽです。(頭をかきながら)彼らは悲しんでいます。このように、彼らは主が言われたことを何も聞いていなかったのです。そして、主は今生きておられ、そして彼らと共に主は歩いておられ、

「どうも、オハヨウゴザイマス。あなたがた、どうしてそんな悲しい顔をしているのですか？」
と聞かれました。

「あら～、エルサレムにいながら、あなただけが知らなかったんですか？」

「何が起きたんですか？」

そして、彼らは主を見ました。25 節から読んでみましょう。

25 するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。

26 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」

27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中でご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。

(ルカ 24:25～27)

基本的に、主が言われているのは、

「わたしはあなたと歩んできました。聖書も読んだはずですが。でも右耳から入って、左耳から出て行ったんでしょ！あなたは信じなかったんですね。ここにわたしはいるじゃないか。」

そして彼らは

「ワ～オ...一緒に泊まって、ご飯を食べましょう！」

と主を誘いました。

見ての通り、主は言われたのです。

「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。」

今日のクリスチャンの 80%以上が、預言から遠ざかっています。聖書預言を学ぼうとしないのです。でも、聖書預言を学ばなければ、大きな聖書パズル全体図の大部分を逃すことになるのです。全体像の 70%は出来上がっているのに、30%は抜けているのです。しかし、この 30%が全体にとってとても重要なのです。たとえば、そのパズルが森の中にとっても素敵なお人の絵だとして、その人が人々に秘密の部分を見せているとします。木とか、花とか、地面とか、鳥とか、70%は出来上がっているのです。その瞬間、こんな風に（びっくりした顔をして見せる）、この秘密の部分がないんです。どうしましょう？70%は出来上がっているのに、その秘密を理解するためには、鳥が飛んでいようが、花が咲いていようが、何の助けにもなりません。その大切な部分がないんです。ですから、イエスがとてもいい人だったのに、とても良い教師だったのに、奇跡を行われたのに、と彼らは聞いていたのですが、主は、何のために来られたかという大事な部分が、——主が死ななければならなかったという事実が、死が死を繋ぎとめていること、主が死からよみがえられたということ、そのことによって、主が、死に打ち勝って、私たちに勝利を与えることがお出来になるのだということ、それは全て預言の中に書かれているのです。そこを信じなければ、大きな全体図の大事な部分を見逃してしまうことになるのです。だから、イエスはご自身の弟子たちをお叱りになったのです。道の上で話し込んでいた内容を——3年間共に歩み、食事を共にした、弟子たちです。主は弟子たちをお叱りになられました。「愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。」預言者たちの言ったすべてを信じない人たち。これが、今日の教会の姿です。愚かな、心の鈍い、預言者たちの言ったすべてを信じないのです。

「携拳なんか、起こらないよ。」

「大患難なんて起こらないよ。」

「千年王国なんてならないよ。」

「神の御国は、この地上のそこら中にあるんだよ。」

「教会が、イスラエルにとって代わって、神はイスラエルに興味なんてないよ。」

これら全ての偽の教えの原因は、一つです。預言者たちの言ったすべてを信じないのが問題なのです。

今回シンガポールから来たのですが、ある一つの教会で、預言カンファレンスをする事になっていました。教会はそんなに大きくなく、300席...(笑)ここよりも大きいですけど(笑)私は、小さければ小さいほど好きですが、大きなカンファレンスは楽しみじゃないんです(笑)だから私はシンガポールに行った時、小さい教会を期待していました。月曜日の朝6時に到着しました。6日前です。シンガポールに着陸しました。ホテルにチェックインして、「ガーツ」(いびきのマネ)(笑)すっかり熟睡していました。夜のフライトでしたから。それから3時間ほど眠って、午前10:30に目が覚めました。メールが来ていたのに気づきました。

「あまりにもたくさんの方が登録したので、会場がありません。」

というのです。

「何人登録したんだ？」

と尋ねたら、

「1,000人」

だと。とにかく、場所がないから、祈ろう、と返事しました。それから、また寝ました(笑)。そして午後2時に目が覚めました。

「ハレルヤ、場所が見つかりました！」

「いくつ席を確保できましたか？」

「1,700席です！」

「OK。何人登録したんですか？」

「もうすでに1,500人。どんどん増えています！」

さて、午後3時になり、電話が鳴りました。

「問題があります。キャンセルしなければならなくなりました。」

300人から始まって、1,000人になり、1,700人入れる会場を確保し、1,500人まで増えて、今度はキャンセル。何が起こったのでしょうか？ある人が電話をしてきて、「政府に通報する」と言ったのです。私が資格なしで教えているから、通報する、と言ってきたのです。その瞬間、私が分かった事は、私に敵対する者は政府じゃない、ムスリムじゃない、ユダヤ人コミュニティでもない、私を止めようとしているのは、誰だと思いませんか？クリスチャンです！聖書預言に同意しないクリスチャンたちです！問題は、敵は外側から攻撃してくることもありますが、もしくは内側からの攻撃もあるのです。敵が教会を攻撃するために一番大きな武器は、これから起こる事が見えないように人々の目を塞ぐ事です。面白いことに、昨日私が読んだ聖書箇所は、コロサイ人への手紙3章1~3でした。お読みします。

- 1 こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。
- 2 あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。
- 3 あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。

(コロサイ 3:1~3)

このように、私たちは、上にあるものを求めるべきです。御父の右に座しておられる方のことを考えなければなりません。そして、彼が私たちのために持っておられる計画を求めなければなりません。第一テサロニケ 5章 1~11節をお読みします。

- 1 兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。
- 2 主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。
- 3 人々が「平和だ。安全だ」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。
- 4 しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。
- 5 あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。
- 6 ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして、慎み深くしていきましょう。
- 7 眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うからです。
- 8 しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶるとしてかぶって、慎み深くしていきましょう。
- 9 神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。
- 10 主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目ざめていても、眠っていても、主とともに生きるためです。
- 11 ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。

(第一テサロニケ 5:1~11)

このように、これらが、私たちが考えるべき事で、それは、互いに励まし合う事です。神は世を裁かれます。ですが、私たちはその御怒りに会うように定められていないのです。同じ第一テサロニケ 4:16~18 を読んでみましょう。

- 16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラツパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、
- 17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らと一しょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともに居ることになります。
- 18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

(第一テサロニケ 4:16~18)

このことばをもって互いに慰め合いなさい。

天にあるものを求めなさい。

イエスがそこにおられます。

イエスは私たちに「来なさい」と言われます。

そして、私たちを迎えに来てくださいます。

そして私たちは、主と共にいることになります。

このことで、互いに励まし合いましょう。それが、私たちが今考えるべき事です。だから、
「携挙がない」

と教える牧師達があります(笑)。(会場、爆笑)

今、読みませんでしたか？主ご自身が迎えに来てくださる、とここにはっきり書いてあります！16節にも「主は」とはっきり書いてあります。主が誰かを送るとは書いていません。昔々、イエスは王座についておられたのです。そこを去って、全てを手放して、人の形として、地上に来られました。イエスは御座を一度去られたのです。そして、主は何も悪いことをされていないのに、死なれました。そして葬られ、よみがえられました。そして、再び御父と共におられるために、天に上られました。主がどれだけ、私たち、皆さんのことを愛しておられるか。主ご自身は、再び下に降りて来られて、——半分でした、空中です(笑)——「今回は皆さんと楽しいことをしましょう」と言われるのです。でも、わたしは途中まで行くから、皆も途中まで来なさい。そして、途中(空中)で、皆で会いましょう。(拍手) 私たちがゆっくりゆっくり天に上がるのを世界が見る、とは思わないでください。世は私たちを見ません。どうしてそれがわかるのか？第一コリント15章51～52節を読んでみましょう。

51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな、眠ることになるのではなく変えられるのです。

52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

(第一コリント 15:51～52)

ここでは、「たちまち、一瞬のうちに」と書いてあります。日本語で何て言いますか？

「たちまち」タチマチ！(笑)(拍手) これから、もしレストランに行ったら、ご飯を急いで持って来てもらうように、ウェイターに「タチマチ！」と言いますかね？(笑)(会場爆笑) ということで、ここで見た通り、私たちはここを去るのです。物凄いことが起こります。イエスが天に上げられたとき、世は主を見ていません。主の弟子たちだけが目撃しました。使徒の働き1章9～11節を読んでみましょう。

9 こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。

雲が、主を受け取られたのです。主は、「わたしはあなたがたを、わたしのもとに迎え入れる」と言われます。

10 イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそばに立っていた。

聖書には、弟子たちは雲の中に包まれて見えなくなった主を見ていたと書いてあります。彼らはこんな風に、ぼかーんとして見ていたんでしょうね(笑)。そして、お互いに顔を見合わせて、また天を仰いで…。そして、そこに立っていた御使いたちが、(皆が気付くまで暇そうに手をこねて待っているジェスチャー)(会場爆笑)

11 そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいで

になります。」

(使徒の働き 1:9~11)

言い換えれば、御使いたちは「どうしてあなたがたはそんなに上を見上げているのか？」と言っているのです。主は上って行かれました。そして、その同じイエスがまた戻って来られるのです。同じ形で、同じ有様で、同じ場所に、オリーブ山に。

「え？ちょっと待ってください。じゃ、イエスさまは戻って来られるんですか？」

「イエスさまの足は、富士山につくんですか？オリーブ山につくんですか？」

主は、オリーブ山から去って行かれました。同じ場所に戻って来られるのです。

「どうしてそんなことが分かるんですか？スゴイ想像力だな〜。」

それなら、ゼカリヤ書 14章 3~4 節を読んでみましょう。

3 主が出て来られる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。

4 その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。

(ゼカリヤ書 14:3~4)

続いて、5 節の後半も読んでみましょう。

5 ...私の神、主が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る。

(ゼカリヤ書 14:5b)

これを書いたのは誰でしょう？預言者ゼカリヤですね。彼は預言者でした。彼はこれを書きました。でも、弟子たちはこれを信じていませんでした。そんなわけで、天使が... (手持無沙汰なジェスチャー) (笑)

「どうしてそんなに驚くの？同じイエス様が、同じ有様で戻って来られるのですよ！預言者ゼカリヤが言った通りに！あなたたちは預言者たちの言ったことを信じなかったんだね。ああ、そういうことか。じゃあ、イエス様には戻って来てほしくないんだね。それとも、上に行きたくないのか？それとも、主とともに戻って来たくないのか。主とともにここを統治したくないのですか？ああ、それとも、大患難を経験したいんですかね？OK!!!」(会場爆笑)

私が何を言わんとしているか、分かりますか？教会の中の混乱の源は、預言者たちの言っている事を無視しているという、とてもシンプルなものです。そのことが、私の心をとてもとても悲しませるのです。だから私は、イスラエルのために一生懸命働いています。このミニストリーによって収入を得ているわけではありません。これは私の自由時間の中でやっていることです。そう言いながら、私は息子の誕生日にも、妻の誕生日にも家にいられませんでした。しかし、主は、私の自由時間に、世界に出て行って真実を伝えるようにと言われたのです。どうして、世界に教えなければいけないのでしょうか？それは、敵が——サタンが、世界の諸国を標的にしているからです。敵は諸国を欺きます。それが彼の仕事だからです。だから、欺きが外側からも、内側からも来ます。そして敵は、皆さんの目を盲目にし、希望を失くします。もし、聖書の中に希望がないとすれば、敵は他の所から皆さんに希望を持って来ます。この世の希望です。だから敵は、「キリストのような誰か」を興してきます。でも、それは反キリストです。人々は彼を信じます。そして、彼が希望となります。なぜなら、彼は平和、繁栄をもたらします。このように、人々を盲目にさせ、そして嘘を信じ込ませるのです。それが、敵の策略です。

さて、昼食の後、具体的な、ある出来事の名前についてお話しします。それは“ゴグとマゴグ”です。私たちが学ぶのは、ゴグとマゴグが二つある、ということ。一つは、私たちがそこを逃しても大丈夫なものです。もう一つは、逃してはいけないものです。チャンネルはそのまま(笑)(会場拍手)ところで、今朝のこのメッセージは、前もって準備されたものではありません(笑)通訳の言波さんを見ればおわかりでしょう。ここに来た瞬間に、iPad をチェックして、主が私に語りかけられたのを、語っているのです。ルカの福音書2章、主がお生まれになられたという事について、シメオンが語っているところ、「異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄」(ルカ 2:32 参照)というところを示すためです。イエスは、皆さんにも光栄を現したいと思っておられます。主はイスラエルの光栄です。そして主は、ご自身を世界の諸国に現したいと思っておられます。そして、黙示(啓示)は、聖書の外にはありません。それが聖書です。「それは聖書の中には書いていない」という人の後には絶対について行ってはいけません(笑)。黙示(啓示)はただ聖書の教えだけから来るものではなく、聖書全体からもたらされるものです。30%を逃したくはないですよ。でも、他にも一つ危険があるのです。ときどき、今まで聖書の預言について教えられていなかった人たちが、今、聖書の預言だけに注目してしまうのです。そして、その他の神の御言葉をないがしろにしてしまうのです。私たちも同じ間違いを犯してしまいます。70%だけを教える人たちの間違い、30%だけを見て興奮してしまう人たちの間違い、どちらも同じ間違いです。私たちは100%を学ぶことを常に念頭に置きましょう。パズルの秘密を覚えていますか？30%が秘密の実体です。でも、全体を見なければ、それが誰なのか、それがいつなのかを分かることは出来ません。だから全体図が必要なのです。この週末、私は、神が皆さんの心の中に、神の御言葉に対する思いと情熱を与えてくださるようにお祈りします。それでは、お祈りします。今日の午後は、ゴグとマゴグについてお話しします。

天のお父様、ありがとうございます。

あなたの御言葉に感謝します。それは真実で、私たちを聖めて、純度の高いものにしてくださいます。これは、ただの真実ではなく、真理です。

お父様、ありがとうございます。あなたは本当に私たちのことを愛して下さり、あなたの子どもたちに、あなたのご計画を知ってほしいと願っておられます。あなたは、あなたのご計画を、あなたの子どもたちに隠してはおられません。あなたは、預言者たちの口を通して、ご計画を明らかにされました。あなたは、終わりの事を初めから告げられました。私たちがすべきことは、心を鈍らせるのではなく、御言葉を読み、聖書が語ることを信じることです。天も地も過ぎ去ります。しかし、あなたの御言葉は変わることがありません。草はしおれ、花は散ります。しかし、あなたの御言葉はとこしえにすたれることはありません。お父様、今朝、この御言葉に感謝します。あなたは、この教会の名前の通りに、永遠のいのちであります。どうか、私たちの中で、あなたのご計画の全てをよみがえらせ、また、いのちを与えてください。それを通して、あなたは私たちにいのちを与えられるだけでなく、私たちが互いに励まし合うようにと言われました。日本の熊本より、あなたに感謝し、あなたを祝福します。主の御言葉が、エルサレムだけでなく、ユダヤ、サマリヤだけでなく、熊本からも流れ出ていきますように。そして、大阪からも、東京からも流れ出しますように。日本から主の御言葉が流れ、沖縄まで、流れますように。神の御言葉に祝福され、豊かないのちが与えられますように。この時間を祝福して下さり、ありがとうございます。次の時間にも、あなたが語ってくださることを期待します。イスラエルの聖なる方の御名、イエシュアの御名、イエスの御名で、私たちは祈ります。

全ての神の民は言います。アーメン。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>